



\*\*\*\*\*

子ども達  
の今  
を  
考え  
る！  
報告

### 「子どもの遊び場に、夜半やってきた若者たち」

学習会の際に、「つくば遊ぼう広場の会」、「コロボックル」の五十嵐さんより、ゴンタの丘（桜総合体育館横にある、遊び場）で起こったことについての報告がありました。「子ども達の今」と、それに対してどのように関わっていくことができるのか、とても考えさせられる話でした。そこで、より多くの方にゴンタの丘で起こったことを知ってもらい、一緒に考えていただければと思います、五十嵐さんに、記事をお願いしました。

桜庁舎のそばにある「子育て冒険広場ゴンタの丘」で、年末より、深夜にたき火をする者が現れるようになりました。看板は燃やされ、薪小屋のカギも壊されるようになって、大変な強風の夜も、雪が積もる上でも、平日休日いつエスカレートするか分からない破壊行為や延焼の心配に翻弄されました。結局1ヶ月の間に10回の不審火が焚かれました。

ゴンタの丘は私有地をお借りして市民団体が管理している遊び場です。個人宅とも、公共の場所とも違うこうした所の難しい点は、公園で不審火が焚かれても、公園自体はなくなりませんが、ここで不審火が続くと、この遊び場自体が無くなってしまう可能性があるということです。小さい子をねらった事件が続き、防犯も大切ですが、同時に大人の見守りがある遊び場を地域の中につくっていかないと、子どもは外で遊ぶことが出来なくなってしまいます。警察・消防へ説明に伺い、自衛策を相談しました。公園管理事務所や体育館の方にも目になっていただきました。ともかく私達の願いは再発防止でした。

しかしその一方、ブロック片をサークル状に囲った大きなファイヤーや、周りを木の長椅子で囲んだ宴の跡を見て、ゴンタで出来る遊びを、これまでに来てくれた若者の中で一番直感的に掴んだのは彼等だと思いました。それがネガのように夜半繰り広げられることに胸を突かれます。どんな人達がどんな気持ちでやってくるのか、彼等の居場所はどこなのか、この学習会にいらした皆さんのお知恵を借りたいと話させていただきました。

1月末、数人の未成年者が捕まりました。人から聞き歩いてきたとか。そうした情報が流れているのです。結局ゴンタから追い出しただけで、これで落ち着くという気持ちにとってもなれない。今、彼等に手紙を書こうかという話がでています。皆さんなら、どうされますか？

「つくば遊ぼう広場の会」 五十嵐 泉

ゴンタの丘で起こったことをどのように考えていくことができるのか、また、「子ども達の居場所」に対して、私たちがどのように関わられるのか、皆さんの感想・ご意見をお待ちしております。ニュースレター編集担当：筑波大学教育社会学研究室（E-mail：edu\_socio@yahoo.co.jp、またはFAX：029-853-4829）まで、声をお寄せください。

# 🍎 「教育相談」 についての紹介 🍎

## 第 10 回 「かるがも・ねっと」 学習会より

2006 年 1 月 23 日(月)の学習会では、教育相談ではどのような支援が行われているのか、また、教育相談や不登校やひきこもりなどを考える「親の会」の活動を通じて、どのようなことを感じてきたのかについてお話しを伺い、就学後の子ども・家庭への支援について考えていく機会をつくりました。今回のニュースレターでは、学習会でお招きした、「つくば市教育相談センター」の宮下能扶子さんと、市民の有志によって活動している「つくば子どもと教育相談センター」の和気三恵子さんのお話の内容を、紹介していきます。



### 1. つくば市教育相談センター 宮下能扶子さん

つくば市教育相談センターは、設立して約 10 年になる、市教育委員会管轄のセンターです。つくば市の中心街から車で 30 分ほどの、自然が豊かな心の休まる場所にあります。

主な活動は面接および電話による相談です。面接相談は月曜から金曜に 50 分を設定しており、親と子別々に面接を行います。親御さんとお子さんが話されたことは、お互いの耳に直接伝わることはありません。面接相談は幼稚園から中学校の学齢期の子どもを対象としており、中学生の相談が多く見受けられます。

一方、電話相談は匿名でかまいませんし、学齢期以外の年齢の子どもについても相談を受け付けています。時期にもよりますが、1日5～6本の相談があります。相談は、電話だけで終わる場合もありますし、電話相談から面接相談に移ることもあります。時期的には長期休みが明けた後の相談件数が多くなっています。

当センターは教育委員会の管轄なので、学校と連携して問題解決にあたることが多くあります。たとえば、学校に出向き、問題を抱えた子のためのチームを組んで、周りの環境を調整していくことや、センターに来所すると学校の出席扱いになるなどの点で学校と連携をはかることなどです。ただし、相談に来た方の情報を学校にお知らせすることはありません。これからは他の機関、たとえば医療関係や児童相談所などと連携して動くことも考えています。

いろいろな相談をお受けするなかで、困難を切り抜けるポイントというのが2つあるように思います。1つは、つらい、苦しいといったマイナス面ばかりではなく、プラスの面にも目を向けていくことです。たとえば「子どもが不登校になって、家の中がめちゃくちゃになった」という悩みが語られることがあります。しかし、そのことに家族全員で対処することによって、母親にすべてまかせっきりだった父親が、子どものことを考えてくれるようになったり、子どもの話を聞いてつらい気持ちを共有できるようになったり、子ども自身も信頼できる友だち関係を持つことができたりするなど、振り返ってみると以前よりも良くなった面もあるのです。そのことを評価することが大切です。

2つめは、「助けられ上手」になることです。自分の価値観が揺るがされるような出来事にぶつかってしまったとき、自分ひとりで切り抜けるのは難しいことです。でもそのときに、友だちや隣近所、仕事先の仲間、私たち教育相談センターなどに助けを借りることで、乗り越えることができます。悩みを相談することをためらわず、上手に助けを求めることも必要だと思っています。

### 2. つくば子どもと教育相談センター 和気三恵子さん

つくば子どもと教育相談センターは、つくば市社会福祉協議会加盟のボランティア団体

です。1994年6月ごろから、不登校の子が目につくようになり、勉強会を開始したのが活動のきっかけです。勉強会が1年ほど続いた後、当時はまだ市に教育相談センターがなかったため、私たちのほうで発足させることとなりました。今年で11年目になります。

活動の内容は多岐にわたっています。活動のきっかけとなった「学習会」(月1回)は、今も続いており、130回を数えました。そして、学習会から枝葉のようにさまざまな分科会が発足し、親たちが話しあえる場として「不登校親の会」「逸脱行為を考える親たちの会(あすなる会)」「高校進学を考える会」「いばらき里芋の会(ひきこもりの青年を理解する親の会)」を開いています。井戸端会議のように何でも話ができる「お茶会」は「子どもの家(以下参照)」で、「親の会」は公民館で活動しています。今年から有料制になりましたが、教育相談も実施しています。毎月、通信(会報)を発行しており、遠くは九州からも購読の申し込みがあります。以上のような活動内容は運営委員会で決めています。

子どもたちに対しては、安心して過ごせるフリースペースのような居場所として「子どもの家」を週1回開いています。子どもの家を巣立っていった子どもたちが、不登校などの状態が落ち着いてきて経験を語れるようになり、私たちに与えてくれるサジェスチョンが、私たちの一番の力になっています。

ところで「親の会」では、「不登校の治し方」のようなものを教えたりするわけではありません。親の会やお茶会で、同じ悩みを語り合ったり雑談をしたりするなかで、親が自分と向き合って気がついたり、他の同じような経験をした方からの言葉を聞いて、エネルギーをもらっていったりするようです。そういった意味では、「相談する」「誰かに話す」ことが重要なかもしれませんが、しかし人に相談するという事は、言うほど簡単なことではなく、垣根の高いことなのです。相談するという事は、その人を信頼しないとできません。そのような信頼関係を身近な人たちの間で築き、互いに支えあえるような地域や社会を作っていかなければ、と思います。

「信頼」は親と子どもとの関係にも当てはまります。子どもが学校を休むと「ずっと続くのでは?」と不安になりますが、ときには「休ませる」勇気も必要です。それは子どもを信頼する第一歩になるからです。親が子を信頼することができれば、子が親を信頼するようになり、親が周囲の人を信頼して力を借りられると、子も周りの人を信頼して力を借りることができるようになるのです。何年か前に「不登校は誰にでもおこりうる」と言われてから、かえって「うちの子も不登校になるんじゃないか」という親の不安が増してきました。不登校に対する親へのパッシングはひどいものです。今、競争原理に基づく社会になっていて、ますます親たちが子育てに不安を感じ、自信をなくしていますが、そういうときこそ、「信頼」がキーワードになるのではないかと思います。

夫婦関係でも同様です。不登校は、父親も動き始めると事態が変わってくる人が多いようです。お父さんが忙しくて何もできなくても、お母さんを支えてくれるだけで違うのです。特に、ご夫婦で相談に見えたと、同じ話を一緒に聞けるので、展開が早いように感じています。

### 相談ができる場所は、他にもあります

#### つくば市社会福祉協議会による「子育て・子どもの悩み相談」

子どものことや家庭のことで悩んでいて、誰かにゆっくり話を聞いてもらいたい...そんなときには、社会福祉協議会の「子育て・子どもの悩み相談」でも相談に応じています。つくばボランティアコーナー相談室で毎週金曜日におこなっており、社協で予約を受け付けています。

♡♡お知らせ♡♡

「かるがも・ねっと」のロゴが決定

「かるがも・ねっと」のロゴが右のようなものに決まりました。



「つくば市子育て支援ネットワーク

かるがも・ねっと」が正式に発足！！

つくば市に子育て支援に関わる機関・団体等のネットワークをつくるという趣旨のもと、「かるがも・ねっと」は活動をしてきました。このたび、3月4日（土）に開かれる「子育てのわ 2006 つどい、つなぐ、つくばの子育て支援 -」の際に、正会員と賛助会員からなる会として正式に発足することとなりました。現在実施している学習会、ニュースレター、つくば市の子育て支援情報のデータ・ベース化などの様々な活動を今後も継続し、さらに活動を展開させていくために、皆さまのご支援をお願いいたします。

なお、会則の内容は、「つくば市子育て支援ネットワークかるがも・ねっと 会則(案)」をご参照ください。会則につきまして、ご意見等がありましたら、2006年2月28日(火)までに、筑波大学教育社会学研究室宛 ( e-mail:edu\_socio@yahoo.co.jp / Fax:029-853-4829 ) にお知らせください。

ニュースレター及び学習会のお知らせは、引き続き無料で、皆様にお送りする方針です。

「子育てべんり帳 子育てのわ」ができあがりしました

皆様にご協力頂きました、「子育てべんり帳 子育てのわ」ができあがりしました。こども課によると、この配布は2月下旬から3月上旬頃から始まるそうです。冊子がおいてある先は、保健センター、庁舎窓口、地域子育て支援センター等になるかと思えます。また、「かるがも・ねっと」にも800部程度、配布用として市から受け取りました。今後、配布先を皆様と考えていき、できるだけ多くの子育て中の方に届くようにしていきたいと思えます。まずは、お知らせまで。

イベントのお知らせ

講演会：「癒しの子育て～抱っこ法～ にこにこ抱っこのすすめ～」

講師：鷲尾真琴先生

日時：2006年2月21日（火）10：30～

場所：板東市立岩井公民館

参加費：1000円（資料代他）保育あり。

お問い合わせ先：板東こども劇場 TEL/FAX：0297 - 36 - 3504

シンポジウム：「子育てのわ 2006—つどい、つなぐ、つくばの子育て・子育て支援—」

日時：2006年3月4日（土） 13：30～17：00 開場：13：00

場所：筑波大学総合研究棟D棟1階 公開講義室

保育あり。詳細は、チラシをご覧ください。

お問い合わせ先：筑波大学人間科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻

共生教育学（教育社会学）分野

TEL：029 - 853 - 4599（飯田浩之研究室）

E-mail：edu\_socio@yahoo.co.jp



発行：つくば市子育て支援ネットワーク かるがも・ねっと（設立準備委員会）

「かるがも・ねっと」は、つくば市にある子育て支援に関わる機関・団体・サークル、ボランティアのネットワークでつくりられています。

発行日：2006年2月14日

編集：遠藤宏美・渡辺恵

問い合わせ先：edu\_socio@yahoo.co.jp / FAX：029 - 853 - 4829（筑波大学教育社会学研究室）